

令和 3 年度

事業報告書

社会福祉法人 藤英会

I. 施設理念

～ のびのび 明るく 穏やかな暮らし ～

II 施設方針

1. 一人でも多くの方に<家としての暮らしの場>を提供することが私たちの使命です。
2. スタッフは<心を一つ>にし、ご利用者様の暮らしに寄り添ってまいります。
3. ご利用者様のお話を丁寧に聞き、ご家族参加型の施設運営を目指します。
4. 地域の皆様に、お気軽にご利用いただき、また育てていただけるよう取り組んでいきます。
5. スタッフ一人一人の<やる気>と<向上>を支援するためのシステムを整えております。

III. 事業方針

COVID-19により介護業界も深刻な状況にありました。

高齢者は重症化しやすく致死率も高く、接触が当然の介護では発症そのものがクラスターを生む環境にあり、この一年ひたすら予防に明け暮れた日々でした。今後はワクチン接種やソーシャルディスタンスを保ち感染予防に努めながら日常生活を取り戻していかなければなりませんでした。

また介護保険制度が始まって20年が経過、65歳以上の被保険者が1.6倍に増加した中で介護サービス利用者は3.3倍に増加し、高齢者にとってはなくてはならないものとして定着しています。地域の高齢者様が安心して介護サービスを受けることができ、サービスを受けることで活動の機会が減少することなく、心身機能や認知機能の維持が出来るような支援に努めました。

そして介護が必要になった高齢者の方に、より質が高く、笑顔につながる心温かい介護が提供できる「みどりの丘の介護」を確立するように努めました。

IV.事業目標

- (1) 地域に開かれ、信頼される施設を目指しました。
- (2) 職員の介護技術や接遇の向上を図り「みどりの丘の介護」を確立するように努めました。
- (3) 科学的介護の導入と実現に努めライフを導入しました。
- (4) 自然災害と感染症のBCPおよびBCMを策定し緊急事態時に備える準備をしました。
- (5) 各部署の努力により稼働率を上げ、稼働率の維持に努めました。

V.事業実施計画

(1) 介護老人福祉施設事業

- ① 多職種の連携に努め、チームケアを行う
それぞれの専門分野の知識を生かすことでご利用者様の状態変化と予防の視点をケアに生かすため毎週木曜日に話し合いの場を設けました。
- ② 広く人材の確保、育成、働きやすい環境を整える
技能実習生や新卒者、中途採用など介護を志す人にとって働きやすく一緒に学ぶ環境を作り努めました。
- ③ 「みどりの丘の介護」の確立
地域の高齢者のみなさんが年を重ねていくことや介護が必要になった場合の不安を払拭できるように「困ったらみどりの丘に相談しよう」と思って頂けるような介護力のある施設を目指しました。
- ④ 高稼働率の維持
みどりの丘の高稼働率は「選ばれる施設」「質の高いサービスの提供」の証と捉えています。今後も地域の高齢者様が利用を希望されるような施設運営を目指しました。
- ⑤ 目標稼働率
上記の取り組みにより入居稼働率はユニット 97.7%・従来型 91%、空所利用と合わせ、年間稼働率 98%は概ね達成できました。

(2) 短期入所生活介護事業

- ① 在宅生活を支える他事業所と連携を取り、ご利用者様に最適なサービスを提供しました。担当のケアマネージャーや往診医など、普段の在宅生活を支える専門職と情報共有しショートステイご利用中の生活に生かすよう努めました。
- ② 介護の基本に立ち返り、ご利用者様に合わせた適切な介助を行いました。三大介護（食事・排泄・入浴）の介護力向上をベースに個々の生活背景に合わせた傾聴や声掛けを行うとともに、相談援助業務にも力を入れることで「みどりの丘をまた利用したい」と思ってもらえるよう努めました。
- ③ 「選ばれる施設」を目標に、昨年以上の稼働率上昇を目指しました。稼働率は、在宅生活をどれだけ支援しているかの根拠になるものと自負しながら「地域で一番信頼できるショートステイはみどりの丘」と思ってもらえるような努力しました。
- ④ 目標稼働率
上記の取り組みの結果、稼働率 130%は概ね達成しました。

(3) 通所介護事業所

- ① 地域から、信頼されるデイサービスを目指しました。
適切な新型コロナウイルス感染予防を行い、安心してご利用いただける環境づくりに努めました。利用者の状況把握や課題分析を行い、外部サービスとの連携を強め、利用者の在宅生活を支えるチームの一員としての役割に努めました。
- ② 基本に忠実な「みどりの丘の介護」の取り組み
プライバシーに配慮し、安全できめ細やかな対応をしました。ご家庭での介護負担軽減と身体状況の観察を行い状態変化の早期発見に努めました。
- ③ 生活機能の維持・向上を目指しました
健康体操・レクリエーションゲーム・趣味の活動・脳トレ・創作活動等のプログラムを提供しました。定期的に目標達成の評価を行い、見える化を図りました。
- ④ 非常事態時の役割
状況に応じ帰宅困難となった場合は、ショートステイサービスに繋げ、利用者の安全な生活の確保に努めました。
- ⑤ 新たな情報配信
コロナ禍で需要が高まったインターネット配信に取り組み、来所せずとも事業所の情報がお手元に届くような取り組みを行いました。
- ⑥ 目標稼働率
平均稼働率 80%を目指しましたがコロナの影響で達成には至りませんでした。

(4) 居宅介護支援事業所

在宅で生活されている方、困難になった方が笑顔で過ごせるように、事業所内の連携の強化を続けました。居宅介護支援事業所の使命として法人に属している居宅介護支援事業所の使命を念頭に置き、地域で必要とされる事業所として相乗効果を生むように努めました。

平均稼働率 100%は達成しました。

VI.介護サービス指針

① 残存機能を生かし、ご利用者様の自己決定を尊重する

丁寧な声かけと残存機能を生かした介助は介助される側にも、介助する側にも優しい介護です。ご利用者様の意思を尊重し自己決定ができるような取り組みを行いました。

② 介護施設として根拠に基づいた、質のよい介護を行う

「入浴・食事・排泄」の三大介護の介護技術の見直しを行いました。ご利用者様にとって安心、安全、安楽な介助に努め、基本に戻りながらなぜその介助方法なのか？と根拠に基づくように努めました。

③ ご利用者様に笑顔になって頂きたい、幸せを感じて頂きたい

日常の暮らしの中で自然と笑顔が生まれるような挨拶や丁寧な声かけを行いました。お一人、お一人との会話を大切にしました。コロナ禍ではありましたが、できる範囲で笑顔に繋がるレクリエーション、クラブ、イベント活動を行いました。

④ 感染症予防に努める

「コロナに負けるなプロジェクト」を立ち上げ、感染症予防の対策を話し合い学び、研修を行ってきました。この学びを生かし、感染症を恐れるのではなく正しい予防と必要な対策がこれからもできるように努めました。

⑤ 寄り添う看取り介護の更なる充実

看取りを希望される方が多くなりました。多くの事例を経験したことで「みどりの丘の看取り」が確立してきました。ご家族様の想いを受け止め、自然な旅立ちのお手伝いをさせて頂きました。

VII.提供するサービス内容

(1) 行事・イベント

慣れ親しんだ風習、四季の移り変わりが楽しめるような行事

4月	お花見（施設周辺）	
5月	端午の節句	筍ご飯
6月	開設記念日	松花堂弁当
7月	七夕	丑の日（うなぎ）
8月	花火大会	流しソーメン
9月	敬老会	お祝い御前
10月	お月見	秋カフェ
11月	秋まつり	屋台メニュー
12月	クリスマス会	クリスマスメニュー
1月	お正月	おせち・新春カフェ
2月	節分（お相撲さんによる豆まき）	節分メニュー（鰯、大豆）
3月	ひな祭り	ちらし寿司
イベント	コンサート・舞踊・ダンスなど	随時
外出レク	花見・外食・買い物・動物園の外出	随時
移動パン屋さん	好きなパンの購入	第1・3・4水曜日

フロア別で実施しました

(2) クラブ活動

趣味や得意分野を生かして頂く活動

クラブ名	内 容	開催頻度
囲碁クラブ	・初心者には入門教室がある ・囲碁仲間が集まり碁を楽しむ	週1回
書道クラブ	・筆を持って書を書く ・季節に合わせた文字を書く	月1回
音楽クラブ	ピアノ演奏に合わせてなじみの唱歌を 歌うことで楽しみにつなげる	毎月1回
美容クラブ	・美容部員の方と一緒に化粧をする ・香りや化粧動作がリハビリにつながる	隔月
手芸クラブ	日本の風習にちなんだ手芸品を作る	4回/年
シネマクラブ	懐かしの邦画・洋画を見る会	月1回

コロナ感染予防のため中止になりました

VIII. 職員研修計画と活動

(1) 定例研修・学習会

職員のスキル向上のための研修および勉強会

実施月	研修内容	主催
4月	令和3年事業目標 法令遵守・プライバシー保護の研修	施設長
5月	食中毒の予防および蔓延防止に関する研修の事例検討	栄養士
6月	高齢者の体調変化と観察の仕方、夜間緊急時の対応	看護師
7月	高齢者虐待防止（身体拘束）と不適切ケアに関する研修	施設長
8月	ケース記録の書き方	介護マネージャ
9月	事故の発生またはその再発防止に関する研修	事故防止委員会
10月	救命救急と緊急時の対応	介護マネージャ
11月	感染症の予防・蔓延防止に関する研修と事例検討	看護師
12月	高齢者の安全な食事に関する研修	栄養士
1月	褥瘡および看取りに関する研修	看護師
2月	認知症に関する研修	施設長
3月	事故の発生またはその再発防止に関する研修	事故防止委員会
随時	介護技術などの勉強会	フロアー責任者

感染状況をみながらフロアー別に実施しました

(2) 会議

意見交換や話し合いを通じて良い施設づくりを進める

会議	出席者	開催頻度	主催
定例会	施設長、事務長、専門職 介護マネージャ・チーフ・ リーダー	第1木曜日	施設長
ケアトップ会議	施設長 介護マネージャ・チーフ	第2月曜日 第4木曜日	施設長
リーダー会議	介護マネージャ・チーフ リーダー	フロアー毎で 決めた日	介護M
フロアー会議	介護マネージャ・チーフ 介護リーダー・スタッフ	月2回	介護リーダー
ナース会議	看護師、施設長、栄養士	毎日	看護

カンファレンス サービス担当者会議	介護マネージャ・チーフ 介護スタッフ（居担）、 栄養士、看護師、ご家族	随時	介護支援専門員
多職種連携会議	介護、相談員、CM、看護 師、栄養士、機能訓練士	毎週木曜日	介護マネージャ

感染対策を行いながら実施しました

(3) 委員会

意見を出し合い取り組みや改善を目指していく

委員会	内容	開催日
入退所検討 委員会	・川崎市の指針に合わせた入居者選び面談を行う ・面談シートに基づき入所判定を行う	1回/3ヵ月
事故再発防止 委員会	・発生した事故検討と再発防止の提案 ・再発防止後の再評価を行う	月1回
感染予防委員会	・食中毒および感染症防止の検討 ・コロナウイルスなど感染症防止の啓発活動	1回/3ヶ月
身体拘束廃止 委員会	入居者様の尊厳ある生活をして頂くためにも安易な 身体拘束をしないことを施設全体として取り組む	月1回
褥瘡予防委員会	・ハイリスク者の把握する取り組み ・予防のための計画の作成と評価	1回/3ヵ月
防災委員会	・年2回の避難訓練を実施 …安心して働く環境づくり（防犯を含む）	2回/年
笑顔になる 食事委員会	・笑顔につながる食事について考える ・選択食やリクエスト食など意向に添えるように	隔月
排泄委員会	・残存機能を生かした介助ができるように ・自然はお通じにつながるような支援	隔月
入浴委員会	日本人なら誰もが好きな入浴を施設でも楽しみにな るような入浴方法を考える	隔月
みんな元気に レク委員会	毎日の暮らしの中に体を動かす、手先を動かす 頭を使うレクリエーションを提案	隔月
接遇美化委員会	「みどりの丘の介護」につながる接遇マナーを考える	隔月

感染対策を行いながら実施しました

(4) プロジェクト

スタッフ自身が企画運営していくプロジェクト

未 来 プロジェクト	10年後の開設 20年目のみどりの丘を考える	隔月
新卒採用プロジェクト	新卒採用に必要な情報や学校訪問を考える	随時
コロナ予防プロジェクト	コロナ感染対策を中心に話し合いを行う	随時

感染対策を行いながら行いました

《 みどりの丘が目指したもの 》

ダイヤモンドプリンセス号で始まったコロナとの闘いは
今まで経験したことがないことがつづき、いつも賑やかだった
みどりの丘がひっそり誰も来ない日がつづきました。
当たり前前日常が奪われたのは私たちだけでなく、全世界の
すべての人たちでした。

とりわけ恐怖に貶めたのは、高齢者は重症化しやすく、施設の生活
そのものがクラスタを生む構造だということでした。

「コロナに負けるなプロジェクト」を立ち上げ、試行錯誤しながら
BCPの策定、外部から講師を招き外からの意見に耳を傾け、予防に
最善を尽くしました。

物品が手に入らない時はご家族様の助けを借りました。

そして気がついたことは、医療や介護はいかなる時もつづけなければ
ならないことでした。道は一つ やりつづけることでした。
そして、やりつづけるなら優しく温もり感じるみどりの丘らしい介護を
したいと強く思った一年でした。

大変な一年でしたが、諦めないことがその先の夢や希望につながる
ことがわかり、貴重な経験ができたと感じています。